

科目名	就職ガイダンス/就職活動講座		担当講師	一岡 永	
講師実務経験	音響会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	A,B,C組 全専攻		授業形態 講義
期 間	5期・6期	総授業回数	12 回	1回あたりの授業時間 90 分	
期	修 得 目 標				
5期	主体性を持って就職活動を進める上で必要な知識を修得する。				
6期	活動の幅を持って就職内定を勝ち取る為のスキルを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月16日	授業ガイダンス 就職活動状況について/就職活動計画の見直し			
2	4月23日	受験促進、労働条件について(賃金、時間)/自己PR、志望動機作成練習			
3	5月7日	面接のポイント①/面接対策実践①			
4	5月21日	OB講話 ※OB来校/応募書類について			
5	5月28日	企業講話 ※企業人事担当者来校 / メールを送り方、オンライン面接について			
6	6月4日	受験促進、企業情報の提供(各業種)/作文対策①			
7	6月11日	企業研修について/作文対策②			
8	6月18日	OB講話 ※OB来校/履歴書作成練習			
9	6月25日	受験促進、東京企業について/自己PR、志望動機作成練習			
10	7月2日	企業講話 ※企業人事担当者来校/就職活動計画の見直し			
11	8月20日	面接のポイント②/面接対策実践②			
12	8月27日	受験促進、企業情報の提供(各業種)/受験の流れ確認			
評価方法	3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト	プリント配布				
注意事項	12回中5回の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	時事研究			担当講師	齋藤 忠貞
講師実務経験	元放送局勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻	授業形態	講義
期 間	5期・6期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間	45 分
期	修 得 目 標				
5期	日常のニュースの詳細とその背景を考える。また、あらゆる分野について現状分析と問題点を理解し修得する。				
6期					
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月13日	ガイダンス。ニュースの分析。			
2	4月20日	感染症について考える。コロナの行方。			
3	4月27日	エネルギー政策①(原子力について)。			
4	5月11日	エネルギー政策②(CO2削減について)。			
5	5月18日	エネルギー政策③(新エネルギー)。			
6	5月25日	JASRAC(著作権問題)①			
7	6月1日	JASRAC(著作権問題)②			
8	6月8日	自然災害と対策①			
9	6月15日	自然災害と対策②			
10	6月22日	人口論と食料自給率①			
11	6月29日	人口論と食料自給率②			
12	7月6日	これまでのまとめ。試験対策。			
評価方法	A評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	12時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	作品制作		担当講師	高橋 学	
講師実務経験	映像製作会社・代表／角川映画・勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5 期	主にプリプロダクションの分野の知識と技術を修得する。				
6 期	プロダクション、ポストプロダクションの分野の知識と技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月12日	授業ガイダンス。1年の授業を振り返って。			
2	4月19日	企画だし、アイデアだしを行う。また、そのトレーニング。			
3	4月26日	プロットの作成。また、そのトレーニング。シナハンについて。			
4	5月10日	脚本の作成。また、そのトレーニング。			
5	5月17日	脚本のブラッシュアップ。シナハンを行う。			
6	5月24日	脚本のブラッシュアップ。ロケハンを行う。			
7	5月31日	絵コンテの作成。脚本読み。ロケハンを行う。			
8	6月7日	撮影①。撮影技術の向上を目指す。			
9	6月14日	撮影②。荒編を開始する。試写を行う。			
10	6月21日	撮影③。再撮影を行う。			
11	6月28日	編集①。編集技術の向上を目指す。			
12	7月9日	編集②。追加撮影、再撮影を行う。曲入れ、編集を完成させる。			
13	8月23日	編集③。微調整。MA処理を行う。			
14	8月30日	完成試写。			
評価方法	B評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	84時間中 29時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	モーショングラフィック		担当講師	水上志乃／割出直矢	
講師実務経験	映像制作会社勤務後、フリーランスとして活動中				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態 実習
期 間	5期・6期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間	135 分
期	修 得 目 標				
5期	AfterEffectsの基本操作とキーフレームアニメーションの概要について理解する。				
6期	クロマキー合成機能、アルファチャンネル、マスク機能を理解する。□				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月20日	授業ガイダンス AfterEffectsの概要 AfterEffectのプロジェクトの基本構造を理解する。 プロジェクト新規作成、素材の読み込み、コンポジション作成、レンダリングの仕方等を実習を通して理解する。□			
2	5月11日	AfterEffectのキーフレームの機能を理解する。 キーフレーム機能を使用したモーシヨンの基礎を実習を通して理解する			
3	5月25日	AfterEffectのシェイプレイヤー機能を理解する。 シェイプレイヤー機能を使って、ベクターデータを生成し、モーシヨンさせる方法を習得する。 シェイプレイヤー機能の構造と操作方法を理解する。			
4	6月8日	AfterEffectのテキスト機能を理解する。 テキスト機能の構造と操作方法を理解する。(テキストアニメーションは使用しない)			
5	6月22日	パスアニメーション機能を使う□ パスアニメーション機能を使って動的な軌跡のコントロール方法を習得する			
6	7月6日	クロマキー合成機能、アルファチャンネルを理解する。□ クロマキー合成機能を使い、ブルーバック撮影された映像素材にアルファチャンネルを作成する方法を理解する。			
7	8月31日	試験対策			
評価方法	B評価 定期試験(筆記試験)30% 授業内技術習得度 70% 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	21時間中8 時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	MA実習Ⅱ		担当講師	田莉子 和之	
講師実務経験	音楽・番組制作会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5 期	MA作業の理解と、付随する特殊用語の習熟、及び、音声・映像に関する知識を修得する。				
6 期	音声編集、同期関係、作業の向上を目標とし、MA作業の知識と技能を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月20日	授業ガイダンス／MAの概要・知識について			
2	5月11日	MA作業準備 / 整音(1)について			
3	5月25日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(1)			
4	6月8日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(2)			
5	6月22日	整音(2) / ミックス について			
6	7月6日	実技習得度判定試験			
7	8月31日	定期試験対策 / まとめ			
評価方法	A評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	21 時間中 8 時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	企画制作Ⅲ		担当講師	河西 隆之	
講師実務経験	テレビ番組制作会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態 講義
期 間	5期・6期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間 135 分	
期	修 得 目 標				
5期	番組の企画構成・台本の作り方を実践的に習得する①				
6期	番組の企画構成・台本の作り方を実践的に習得する②				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月13日	授業ガイダンス～班ごとに分かれ役割分担～作品①の企画立案			
2	4月20日	作品①の企画立案～構成・台本作成へ (代講:明道厚志 先生)			
3	4月27日	作品①の台本完成			
4	5月11日	班内で役割分担変更～作品②の企画立案			
5	5月18日	作品②の企画立案～構成・台本作成へ			
6	5月25日	作品②の台本完成			
7	6月1日	班を組み直して役割分担～作品③の企画立案			
8	6月8日	作品③の構成・台本作成～台本完成			
9	6月15日	班内で役割分担変更～作品④の企画立案			
10	6月22日	作品④の構成・台本作成～台本完成			
11	6月29日	班を組み直して役割分担～作品⑤の企画立案			
12	7月6日	作品⑤の構成・台本作成～台本完成			
13	8月24日	映画の紹介コメント作成			
14	8月31日	試験対策			
評価方法	A評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	42時間中 16時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	ENG実習Ⅱ		担当講師	三浦 貴正	
講師実務経験	放送局勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5期	ロケや室内でのカメラワーク等の撮影技術を学び、将来のキャリアに役立つ実践的な技術を習得する。				
6期	映像表現における理解を深め、クリエイティブな視点や考え方を学ぶ。並びにチームワークの重要性を理解し修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月14日 4月21日	授業ガイダンス・撮影実習（屋内外）① 撮影・プレビュー			
2	4月28日 5月19日	撮影実習（屋内外）② 撮影・プレビュー			
3	5月26日 6月2日	撮影実習（屋内外）③ 撮影・プレビュー			
4	6月9日 6月16日	撮影実習（屋内外）④ 撮影・プレビュー			
5	6月23日 6月30日	撮影実習（屋内外）⑤ 撮影・プレビュー			
6	8月18日 8月25日	評価対象実技試験実施・定期試験対策			
評価方法	評価方法B 定期試験点数(30%)、実技習得度(70%) 平常点±10点(出席率、授業態度・取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	必要に応じてその都度、参考資料を配布する。				
注意事項	18時間中7時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)。				

科目名	ストリーミング		担当講師	岡 宏樹	
講師実務経験	映像制作会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5期	ストリーミングの基本的な知識やライブ配信に使用する機材の役割、使用方法を習得する				
6期	機材のセッティングからライブ配信を行うまでの一連の流れを習得する				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月21日	授業ガイダンス ストリーミング、ライブ配信について			
2	05月19日	ライブ配信の機材について			
3	06月02日	Wirecastについて			
4	06月16日	配信機材セッティング実践①			
5	06月30日	配信機材セッティング実践②			
6	08月25日	試験対策			
評価方法	B評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	18時間中 7時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	無人航空機概論		担当講師	成田・松永	
講師実務経験	ドローンスクール講師				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻	授業形態	演習
期 間	5期・6期	総授業回数	12 回	1回あたりの授業時間	135 分
期	修 得 目 標				
5期	ドローンの操縦に必要な知識(歴史、法律やルール、各種申請方法)や基礎技術(機構や基本操作)を習得する。				
6期	ドローンの操縦に必要な基本操作、応用操作を習得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月14日	授業ガイダンス			
2	4月21日	機体、送信機の操作・機能、バッテリーの運用等			
3	4月28日	ドローンの操作技術を学ぶ② ホバリング、移動			
4	5月19日	ドローンの操作技術を学ぶ③ ホバリング、移動			
5	5月26日	ドローンの操作技術を学ぶ④ 目視外			
6	6月2日	ドローンの操作技術を学ぶ⑤ 応用			
7	6月9日	法律・ルール			
8	6月16日	安全運航管理・気象			
9	6月23日	ドローンの操作技術を学ぶ⑥ 応用			
10	6月30日	ドローンの操作技術を学ぶ⑦ 応用			
11	8月18日	ドローンの操作技術を学ぶ⑧ 応用			
12	8月25日	試験対策			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	36時間中13時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	撮影実習Ⅲ		担当講師	田端 優一	
講師実務経験	放送局関連会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5期	ロケーション、スタジオに必要な撮影技術全般を修得する。				
6期	実践的に制作しながら番組制作技術全般を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月15日	授業ガイダンス～企画制作Ⅲに沿った撮影機材の選定			
2	5月6日	ロケーション撮影及びスタジオ収録①			
3	5月27日	ロケーション撮影及びスタジオ収録②			
4	6月10日	ロケーション撮影及びスタジオ収録③			
5	6月24日	ロケーション撮影及びスタジオ収録④			
6	8月19日	ロケーション撮影及びスタジオ収録⑤～定期試験対策			
評価方法	B評価 定期試験点数(30%) 実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	資料配付				
注意事項	36時間中 13 時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	編集実習Ⅲ		担当講師	岡 宏樹	
講師実務経験	映像制作会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5期	映像作品を完成させるまでの一連の流れを習得する				
6期	映像表現の実践的なテクニックを習得する				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	04月22日	Premiereの使い方について			
2	05月20日	作品制作Ⅰ 編集(素材取り込み～編集～完成)			
3	06月03日	作品制作Ⅱ 編集(素材取り込み～編集～完成)			
4	06月17日	作品制作Ⅲ 編集(素材取り込み～編集～完成)			
5	07月01日	作品制作Ⅳ 編集(素材取り込み～編集～完成)			
6	08月26日	作品制作Ⅴ 編集(素材取り込み～編集～完成) 試験対策			
評価方法	B評価 定期試験(筆記試験)の素点で評価 平常点±10点(出席率、授業態度、取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	36時間中13時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	スチール実習Ⅲ		担当講師	高橋 吉之	
講師実務経験	カメラ修理会社、写真撮影および編集会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	5期・6期	総授業回数	12 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
5期	カメラの種類と構造を理解し、メンテナンス方法を学ぶ				
6期	他者からの依頼、要求を表現できるようにする				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月16日	授業ガイダンス、昨年の振り返りおよびカメラ操作方法の復習			
2	4月23日	おこりうる機材トラブルと対処方法、カメラ、レンズなどの機材のメンテナンス実技実習			
3	5月7日	画像データの種類、使い分けについて、画像データ取り扱い上のトラブルと対処法			
4	5月21日	露出のマニュアル操作習得、露出決定の方法			
5	5月28日	撮影実習、マニュアル露出の操作習熟			
6	6月4日	光源、光線の種類と見つけ方生かし方、天候や場所、時刻による光の違い			
7	6月11日	総合撮影実習、屋外撮影			
8	6月18日	補助光、人工光、ストロボ光特有の特徴および注意事項と撮影方法			
9	6月25日	光源、光線と構図、露出と表現との関係			
10	7月2日	模擬受発注による作品制作①制作計画立案			
11	8月20日	模擬受発注による作品制作②撮影実践			
12	8月27日	作品講評および復習、試験対策			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:随時提出物および期末提出作品による				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	プリント都度配布				
注意事項	24時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				